

■創刊 ちょっといい話 5話

心を繋いだボールペン

お弁当のメニューと一緒に書く“今日の一言”。

私はここにときどき、家族のこと、特に子どものことを書くことにしています。

高齢者の方は、時事的なニュースよりも、ちょっとした身の回りの出来事や土産話を好む方が多いように思えるからです。

我が家の長男が高校受験を控えていたときのこと、私はときどきその長男のことを“今日の一言”に綴っていました。

「受験生の自覚はあるのでしょうか？ 全く勉強しません・・・」

「先日の試合で、中学校のサッカー生活を終えました！ あとは受験ですね！」

「少し受験生の自覚が出てきたようです。机に向かう時間が増えてきました！」

などなのです。

そんな子どもの話に、とても興味を持ってくれたのがMさんです。

少し話を聞いてみると、もう10年近く会っていないお孫さんが、私の長男と同じ歳だということがわかりました。

「ずっと会っていないし、連絡も取れていないけど、あの子も頑張っているでしょうね」
“今日の一言”の話を通して、自分のお孫さんを想い、私の長男と重なって見えたようでした。

それからというものMさんは

「息子さんはお勉強を頑張っていますか？」

「体を壊さない程度に頑張って、と伝えてください」

など、自分のお孫さんのことのように気遣ってくれていました。

「息子さんの夜食にどうぞ」とお菓子を頂戴したことも何度かありました。

いよいよ年が明けて受験シーズンが到来。長男は無事に第一志望の高校に合格することができました。

翌日の“今日の一言”には、もちろん長男の合格のことを書きました。
Mさんには口頭で報告し、まるで自分の家族のこのように喜んでくれました。

数日後、Mさんにお弁当を届けると、
「これを息子さんに渡してください」
と小さな細長い箱を手渡されました。中身はすこしお洒落なボールペンです。
「そんなに高いものじゃないから、気にしないで受け取ってくださいね」
断るのも失礼だと思い、ありがたく長男への合格祝いとして受け取りました。

「いつもお前にお菓子をくれていたおばあちゃんが、合格のお祝いをくれたぞ」
とだけ伝えて、長男にそのボールペンを手渡しました。

翌日の出勤のとき、長男が私に封筒を手渡してきました。しっかり糊付けされていたので、私も中身は知りません。
「昨日もらったお礼の手紙。そのペンで書いたから、おばあちゃんに渡しといて」
我が子ながら、反抗期には合格点のお礼だと思います。

その日、Mさんのお弁当の配達日ではなかったのですが、私はもちろん手紙を
届けに行きました。

寮生活のために家を出た長男は、大切そうにそのペンも持って旅立ちました。

